

亶理町の結果概要について

亶理町教育委員会

■調査の概要

1 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 令和6年4月18日(火)

3 調査対象学年 小学校第6学年(242名)、中学校第3学年(269名)

4 調査事項

- (1)教科に関する調査 小学校6年生:国語, 算数 中学校3年生:国語, 数学
- (2)質問紙調査
 - ①児童生徒:学習意欲, 学習習慣, 生活習慣, 規範意識, 自己有用感等
 - ②学校:授業改善, 生徒指導, 教科の指導方法, 学校運営, 教職員の資質向上, 家庭や地域との連携等

■教科に関する調査結果の概要

- 小学校において、国語の平均正答率は全国平均を0.7ポイント、算数は5.4ポイント下回っています。
- 中学校において、国語の平均正答率は全国平均を1.1ポイント、数学では7.5ポイント下回っています。
- 小学校の国語では、登場人物の相互関係や心情、描写を基に人物像を想像したり、表現の効果を考えたりする「読むこと」の正答率は高いです。しかし、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られます。相手や目的を意識した資料を用意し、聞き手に応じて表現を工夫する「話す・聞く」活動が必要です。
- 中学校の国語は、資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに特に課題があります。興味のある話題等について自分の考えなどを資料にまとめ、説得力のある話をするなどの活動や、調べたり考えたりしたことに基づいて説明や発表をしたり、それを互いに聞き合って意見を述べ合ったりする活動を重ねていくことが必要です。
- 小学校の算数は、日常生活の問題解決のために、目的に応じたデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察できるかをみる「データの活用」に課題があります。興味・関心や問題意識に基づいたデータを収集し、分類整理したり、表や適切なグラフに表したりして、統計的に解決できるようにすることや、条件や情報を解釈し、数学的に表現し、判断できるようにする学習活動が必要です。
- 中学校の数学は、回転移動についての理解、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること、筋道を立てて考え、証明すること等についてが特に顕著ではありますが、全体にわたって課題が見られ、事態は深刻です。何か特筆する手立てというよりは、改めて基礎・基本に立ち返り、数学的なものの見方・考え方を大切に育てていくべく、地道な取組を重ねていくことが必要です。

1 令和6年度の平均正答率(全国・宮城県・亶理町)

対象	教科	全国	宮城県	亶理町	全国比
小学校	国語	67.7	66	67	-0.7
	算数	63.4	59	58	-5.4
中学校	国語	58.1	57	57	-1.1
	数学	52.5	51	45	-7.5

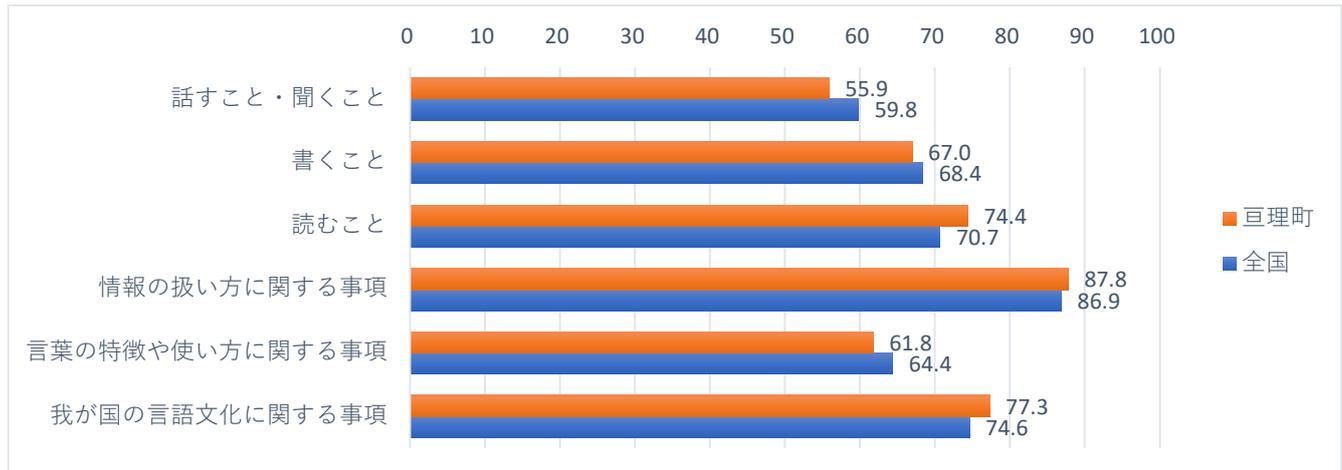
※平均正答率とは、各児童・生徒の全設問における正答数の割合(正答率)を足し合わせ、児童・生徒の人数で割った値です。

2 領域別の到達状況

(1) 小学校

【国語】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

<話すこと・聞くこと>

◇: 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する〔1一〕

▼: 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する〔1二(2)〕

▽: 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する〔1三〕

<書くこと>

◇: 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする〔2一(1)〕

▽: 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する〔2二〕

<読むこと>

○: 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える〔3二(1)〕

○: 人物像を具体的に想像する〔3二(2)〕

○: 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする〔3三〕

<情報の扱い方に関する事項>

◇: 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う〔2一(2)〕

<言葉の特徴や使い方に関する事項>

▽: 話し言葉と書き言葉との違いに気付く〔1二(1)〕

▼: 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「きょうぎ」〔2三ア〕

▽: 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「なげる」〔2三イ〕

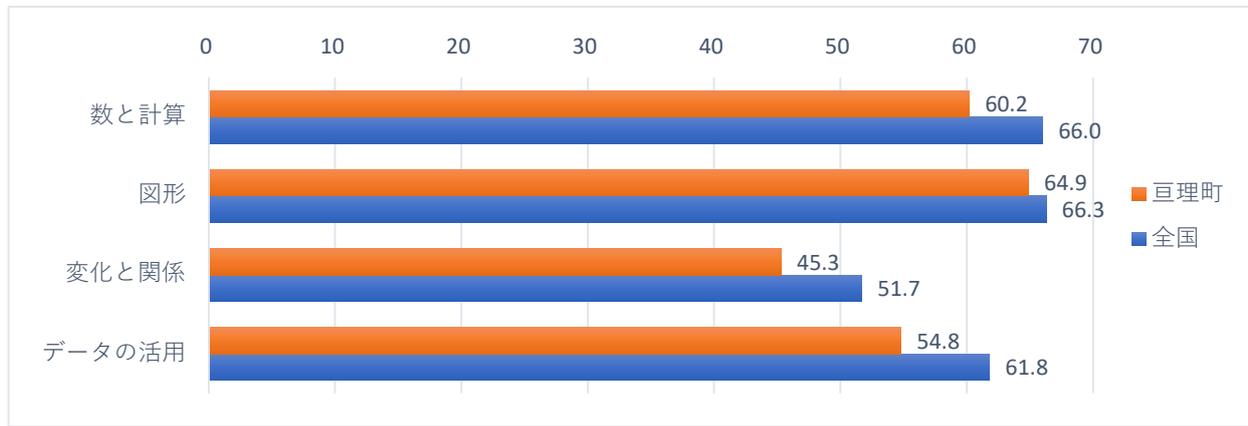
◇: 文の中における主語と述語との関係を捉える〔3一〕

<我が国の言語文化に関する事項>

○: 日常的に読書に親しみ、独所が、自分の考えを広げること役立つことに気付く〔3四〕

【算 数】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

<数と計算>

▼: 問題場面の数量の関係を捉え、式に表す[1(1)]

◇: 数量の関係を、□を用いた式に表す[1(2)]

◇: 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する[2(1)]

▽: 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している[2(2)]

▼: 除数が小数である場合の除法の計算をする[4(1)]

▼: 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する[5(4)]

<図形>

○: 直方体の見取り図について理解し、かく[3(1)]

▼: 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する[3(2)]

▽: 円の直径の長さや立方体の辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す[3(3)]

○: 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する[3(4)]

<変化と関係>

▽: 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する[4(2)]

▼: 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する[4(3)]

▼: 速さの意味について理解する[4(4)]

<データの活用>

▽: 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る[5(1)]

▼: 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する[5(2)]

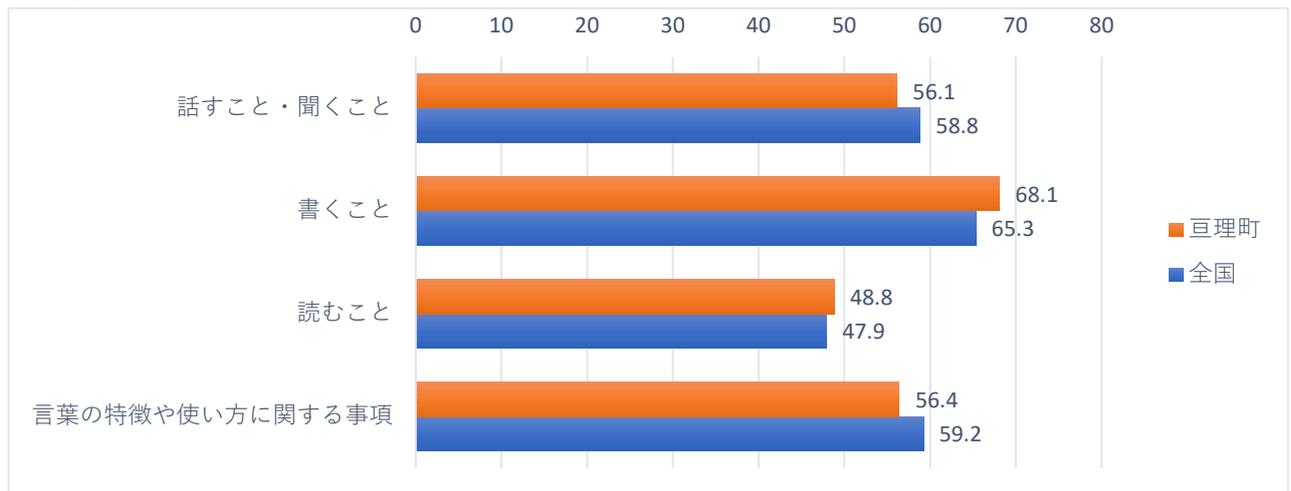
▼: 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する[5(3)]

▼: 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する[5(4)]

(2) 中学校

【国語】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

<話すこと・聞くこと>

◇: 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える〔1一〕

▼: 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す〔1二〕

▽: 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる〔1四〕

<書くこと>

○: 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする〔3一〕

○: 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する〔3四〕

<読むこと>

○: 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する〔2一〕

◇: 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える〔2三〕

▽: 目的に応じて必要な情報に着目して要約する〔2四〕

○: 短歌の内容について、描写を基に捉える〔4二〕

<言葉の特徴や使い方に関する事項>

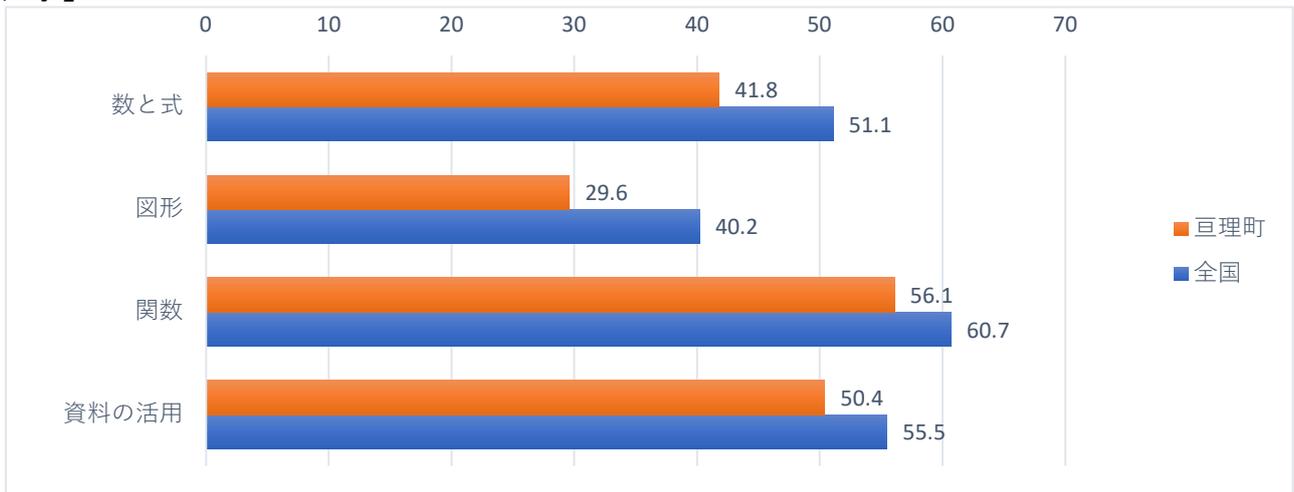
▽: 文の成分の順序や照応について理解している〔3二〕

▽: 文脈に即して漢字を正しく書く〔3三〕

▽: 表現の技法について理解している〔4一〕

【数 学】

【平均正答率(%)】



平均正答率の全国との乖離

(◎: +5ポイント以上 ○: +1ポイント以上 ◇: -1ポイント以上+1ポイント未満 ▽: -1ポイント未満 ▼: -5ポイント未満)

<数と式>

▼: 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す〔2(1)ア(イ)〕

▽: 等式を目的に応じて変形する〔2(1)ア(エ)〕

▽: 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる〔1(1)ア(イ)〕

▼: 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する〔2(1)イ(イ)〕

▼: 統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する〔2(1)イ(イ)〕

<図形>

▼: 回転移動について理解している〔1(1)ア(イ)〕

▼: 筋道を立てて考え、証明することができる〔2(2)イ(イ)〕

▼: 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、
新たな性質を見いだすことができる〔2(2)ア(イ)イ(ア)〕

<関数>

▼: 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している〔2(1)ア(ア)〕

○: 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる〔2(1)ア(ア)〕

▼: 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる〔2(1)イ(イ)〕

▽: グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる〔2(1)ア(ア)〕

<データの活用>

▽: 簡単な場合について、確率を求めることができる〔2(2)ア(イ)〕

▽: 与えられたデータから最頻値を求めることができる〔小6(1)ア(ア)〕

▼: 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて
説明することができる〔2(1)イ(ア)〕

▼: 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる〔2(1)ア(ア)〕

3 児童・生徒質問紙調査の結果の概要（※「児童生徒の回答」の一部抜粋）

- 「自分には、よいところがある」の項目について肯定的な回答をした割合は、小中ともに県平均を下回りましたが、中学校は昨年度より向上が見られました。
- 平日の家庭学習の時間について、小・中学生ともに30分以上2時間未満学習している割合は県平均を上回っています。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と肯定的な回答をした割合は中学校が若干県平均を下回っています。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに県平均とほぼ同等となっています。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでる」の項目について肯定的な回答をした割合は、中学校で若干県平均を下回っています。

